

令和3年度に向けた改善方策

令和2年度学校関係者評価委員会の評価を受けまして、令和3年度は次のように改善方策を講じてまいります。
次年度もご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月26日
真鶴町立まなづる小学校
校長 浜口 勝己

重点項目	評価項目	学校の自己評価 (下段: 昨年度)	コメント (自己評価・改善に向けた取組について)	次年度の改善方策
児童の確かな学力の定着と、自ら学ぶ意欲や思考力の育成	1 学力向上に向けて算数ステップ、朝の読書が有効に機能している。(基礎的学習の定着、読書の習慣化) 普段の授業を子どもの興味・関心と関連させ、工夫して展開している。(授業の工夫・改善、評価の工夫・改善) 学年の実態に合わせて、日常的に書く機会を工夫して設けている。(授業、家庭学習等各機械の工夫・書き方の指導・評価の工夫・改善等)	3.0 (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が書くことへの抵抗感が少なくなっていることは、全職員が意識して、日常の中で書く活動を多く取り入れ、各教科で、自分の考えを書く機会を増やしてきた成果が出ていると思う。今後もさらなる充実が期待される。 ・算数ステップ、朝の読書を習慣にしているのはとてもよいことだと思う。文章を書く力はいろいろな言葉を知らないとつかないで読書は大切。たくさんの本を読んでもほしい。児童アンケートでも本を読むのが好きという答えが6割に上る。さらなる伸長を望む。 ・朝の読書は、とてもよい取組みだと思う。アンケートでも「本が好き」と結果が出ているので続けていただきたい。「書く力」はぜひ継続して指導してもらいたい。ただ、学校だけで身に付くものでもないで、作文の宿題では保護者はこのようにフォローしてくださいなど教えていただきたい。 ・朝の読書が習慣化されていることはとてもよい。アンケートで子どもたちも実感しているのもそのまま続けてほしい。週数回の漢字ノートの宿題もそのまま習慣化されてほしい。 ・文章を書く力は、社会に出てからもとても大事なので、より一層の指導をお願いする。 	<p>【算数ステップ・読書の習慣化】</p> <p>毎週の「読書タイム」(ボランティアによる読み聞かせを含む、今年度読み聞かせは、新型コロナウイルス感染症対策のため、定期的ではなく、状況に合わせて実施)は、各学年とも読書の習慣化ができており、全校で読書に親しむ時間となっている。今後も継続していきたい。また更なる読書の習慣化の工夫について検討していく。</p> <p>今年度から、4年生以上に朝モジュールを導入したことにより、算数ステップは、3年生以下が対象となった。基礎学力の定着をねらいとした学習プリントや授業の前準備として必要な計算問題プリント等、学年の実態に合わせた工夫した取組みができた。3学年「算数ステップ」として位置付けて実施をするので、系統性を生かした継続的な取組みができよう。次年度は、算数主任が中心となって進めていけるようにする。</p> <p>昨年度作成した書く活動を取り入れた「授業のベースプラン」をもとに、日常の中で書く活動を多く取り入れてきたことにより、自信をもって書いたり、日常的に漢字を使うようになったりする児童が増えた。来年度も児童の実態に合わせた継続的な取組みをしていく。また、家庭学習で作文等書く学習に取り組む際には、書く際のポイントを学級便り等を通して保護者に知らせることで、家庭と連携して書く力を育てていけるようにする。</p>
	2 家庭での学習時間の確保のための家庭との連携、協力関係ができてきている。(家庭学習の習慣化と家庭との連携)	2.6 (2.9)	<ul style="list-style-type: none"> ・テストでは漢字を書き書いても、普段の文(日記等)で使っていないことが多いと、自分の子どもを見ていて思う。自主学习は何をやるか悩んでいる時間が長いのが気になる。 ・学校と家庭が同じ意識をもって協力するというのは、ハードルが高い項目だと思った。今年は先生の熱意を伝える場も、コロナによって少なくなってしまったと思う。 	<p>【家庭学習の取組み】</p> <p>昨年度に引き続き、今年度も各学期に家庭学習がんばり週間を設定したが、新型コロナウイルス感染症対策のため、3学期(2月1日～2週間)のみの実施となった。</p> <p>家庭学習がんばりカードを活用して、家庭学習の習慣化に取り組んだ。保護者と連携した取組みを行うことで、意欲をもって取り組む児童が増え、宿題の提出率も上がった。内容については、児童の実態をもとに各担任で検討し例示して取り組めるようにした。また、廊下の掲示板に「家庭学習紹介コーナー」を設け、工夫した取組みをしている児童のノートのコピーを貼り出すことで、どのような内容についてどのように取り組んだらよいか気付けるようにした。</p> <p>来年度は「子供たちの意識を高めること」を推進しながら、「家庭学習のすすめ」などをベースに、より一層児童の実態に合った家庭学習の内容や取組みについて検討を図り、家庭学習の習慣化について懇談会等の場を利用しながら各家庭と連携して取り組んでいきたい。</p>
	3 TT、少人数指導、リソースルーム、支援教育など、個に応じた指導の充実のための校内体制が有効に機能している。	3.3 (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者アンケートで昨年よりも高い評価で素晴らしい。 	<p>【TT・少人数、リソースルーム等】</p> <p>町の支援をいただくことで、手厚い対応がとれている。個別対応・継続的にかかわりなどが必要な児童が各学年にいたため、サポートの在り方を全職員で確認しながら、児童の思いや困り感に寄り添った支援をし、自己肯定感を高めることができるようにしていく。また、支援員の配置についても、学年・学級の実態を考慮しながら、柔軟に対応できるようにし、学年・学級の状況に応じて、町非常勤講師を配置して、きめ細かい指導・支援に努めていきたい。</p>
	4 教育課程の整備・改善を図り、教科・領域の指導計画等が整えられている。(授業時数の確保、予算の確保、指導要領の移行に伴う指導計画の整備等)	2.9 (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は様々な制約があった中、「休校分の遅れを取り戻しつつある」とのことで先生方の努力の結果だと感じている。 	<p>【教育課程の整備・改善(外国語活動への対応を含む)】</p> <p>新学習指導要領実施1年目だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、本来の教育課程を修正しながら実践した。時数の調整や学習内容の精選等により、今年度学習すべき内容については、調理実習の内容以外は、実施することができた。</p> <p>安全配慮事項については、今年度の実践をもとに見直しを行った。今後も備品の更新を図るなど安全な学習の確立にむけ取り組んでいく。</p>

児童の豊かな心の育成	5	校内指導体制を確立し、共通理解・共通行動を図り、全職員で指導する。特に問題行動に対しては、すばやく対処し、解決を図っている。	2.9 (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当学年以外の児童にも職員が積極的に声掛けをすることで児童の困り感等も早期に発見できるとともに、自己肯定感を高めることにもつながると思う。 ・児童数も少ないので、どの先生も全校の児童のことは見てくれているのが分かるので良いと思う。 ・一保護者の感想として、ランドセルから引きずるほどの縄跳びひもを出して歩いていたら、担任ではない先生が「それは危ないよ」とランドセルの中にしまってくれた。よく見て、直ぐに行動する姿に感動した。 ・担任の先生以外の先生から声をかけられることは子どもたちにとっても安心感のある学校生活を送れていると思うので単級ならではの指導だと思う。 ・積極的な声掛けをお願いします。 	校内指導については、教育相談コーディネーターを中心とし、全児童を全職員で指導できるような体制づくりを継続していく。問題行動については、児童の不安軽減や課題解決に向けて特に迅速に対応できるよう、ケース会の中で役割分担を明確にして指導にあたり、全職員への周知、その後の対応についての報告・連絡・相談を確実にやっていく。
	6	人権教育推進研究の取り組みを通して、教職員・児童・保護者・地域が一体となって人権感覚の醸成を図っていく。アンケート調査、Q-U検査等による情報収集と実態把握、それに基づく児童指導の充実を図り、いじめのない楽しい学級づくりが進められている。	3.0 (3.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止朝会も工夫をされて実施し、学校全体で対応する心構えも素晴らしい。 	<p>【人権教育】</p> <p>呼名の際の「さん付け」「ほかほか言葉への意識付け」など全校での取り組みを大切にする意識をもって、全職員で共通理解を図りながら人権意識の日常化に取り組んできた。「異学年交流」については、新型コロナウイルス感染症対策のためできる範囲での取り組みとなった。児童自らが感染症拡大防止対策を取り入れ、遊び場所やルールを工夫しながらの取り組みができた。来年度も今年度の取り組みを生かしながら、状況に合わせて異学年交流を実施していく。</p> <p>【いじめ防止】</p> <p>アンケートなどを活用するとともに、日頃から児童や家庭から相談しやすい雰囲気づくりをするとともに、「いじめは、在り得るもの」として職員が意識することで、担任一人で抱え込むことなく、学校全体でチームとして対応できるような指導体制を継続し、表に出にくい「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応に努める。実際の指導にあたっては、加害側、被害側の思いを丁寧に見取り、家庭とも連携を図りながら、表面的な解決ではなく、継続的な観察を大切にとらえ、児童の育ちを支えていけるように取り組んでいく。また、いじめ防止朝会を通して全校でいじめの理解と防止のための共通認識をもつことで、いじめ防止への意識をより高めていきたい。</p>
	7	不登校傾向の児童に対して、朝の家庭への連絡、家庭訪問や保健室登校といった対応、さらには地域の協力者、専門機関と連携を行うことにより、登校へ向けて組織的に取り組んでいる。	3.4 (3.4)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が始まっている時間に、いつも同じ子がゆっくり歩いて登校している。気になっている。たまに教育委員会の方と一緒に歩いているので把握していると思うが。 ・とても繊細な問題にも一歩踏み込み取り組んでいると思った。 	<p>【不登校への対応】</p> <p>登校時間の周知徹底を図るとともに、遅刻の際の家庭への連絡を今後も継続して実施し、理解を深めていけるよう取り組んでいく。また、町教育委員会をはじめとした外部機関と連携をしながら、登校リズムが整うよう支援をしていく。月3日以上欠席、遅刻の多い児童など、不登校につながる要素に目を配り、外部の協力もいただきながら、家庭と連携を図り、未然防止に努めたい。</p>
	8	各学校行事の充実を図ることにより、児童にとって潤いと活気のある学校生活が保障されている。基本的な生活習慣（あいさつ・礼儀・時間を守る等）の確立を図っている。携帯電話・ゲーム時間の管理の指導について家庭と連携を図っている。	2.6 (2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、できない中を教員と児童共に考え、再度目的の確認をして工夫した取り組みは児童の成長に効果的だったと思う。 ・コロナ予防のためできないことが多い中、工夫してやってくれている。性格や高学年になるとできなくなる子もいるがあいさつのできる子は多い。携帯やゲームは学校だけでなく、家庭の指導の重要だと思う。（ルールを守って使い方を指導して行かなくてはと思う） ・生活習慣については、家庭環境の差も大きいと思う。先生だけでなく、保護者や地域の方々も自ら挨拶をする姿を子どもたちに見せていただきたい。スマホやゲームでの恐ろしさ（長時間やることや事件に巻き込まれる）は学校からも伝えてほしい。 ・コロナ禍の影響で今までどおりのことができず、授業の進め方などを変更しなければならないなどとても大変だったと思う。全ての行事が中止になってしまった地域がある中、ミニ運動会など子どもの成長を見ることができたことは親としてはとてもよかった。 ・ミニ運動会はよかった。コロナ対応のためだったが、短時間で、児童を集中的に観ることができた。 	<p>【行事の充実】</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策により、例年通りの実施が難しい行事が多かった。ねらいを明確にしながら、どのような内容や形態なら実施可能かを検討し、それを児童に伝え、児童自身がねらいに沿った活動を考えながらできる範囲で取り組むことができた。今後も新型コロナウイルスの状況に合わせた対応が必要となってくるが、今年度の取り組みから成果と課題を整理し、見直しをもって実施できるようにしたい。</p> <p>【基本的な生活習慣・ネットリテラシー】</p> <p>基本的な生活習慣については、学校生活の様々な場面において確立に向けた指導を継続する。また、お便りで児童の様子を伝えたり、懇談会で情報共有しながら学校と家庭の役割を明確にしたりすることを通して、保護者と連携し定着を図るようにする。</p> <p>ネットリテラシーについては、特にネットゲーム上のやり取りから生じるトラブルが、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休校等、家で過ごす時間が長くなった時期があったことから、課題が顕著になってきている。今年度は、携帯電話教室や情報リテラシー教室等を開催することができなかったが、次年度は、学校公開日に保護者と児童とが共に学べる場の設定をするなどの取り組みを検討し、指導を連携して行えるようにしたい。</p>

児童の健康づくり、安全の確保	9	安全で充実した教育活動を保障するために、施設、設備面での改善や、登下校時の安全の確保が図られている。	2.8 (2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や教育委員会と連携して児童の登下校時の安全確保ができています。 ・安全についていろいろ考えてくださっているのが伝わってくる。(駐車場のことなど) ・保護者アンケートで高い評価でよい。校内の老朽化などに対する町の予算や支援について、すべてを理解できていないが、もっと優遇されてほしい(PCやWIFI整備) ・学校環境の保護者アンケートもポイントアップしているので、引き続き、点検、確認、改善を頑張してほしい。 ・早い時間に登校して遊具等で遊ぶことは、教職員の目も行き届かないため、何か起きた時の対応が遅れてしまうことから、登校時間前に遊具等で遊ぶことは禁止にしてもよいのではないかと。 	【施設・設備面での改善(校内外)】 定期的な職員による安全点検により事故の発生を未然に防ぐ手立てを講じ、安全への意識を職員間で共通理解できるようにしてきた。来年度も継続する。また、昨年度作成した各教科における安全配慮事項一覧を年度末に見直し、児童が安全な環境で学習活動ができるよう、必要事項を整理した。次年度教育課程を進めていく中で、安全配慮事項に基づいて授業が行われるよう、年度の始めに職員へ周知・確認する。 校内の施設・設備面については、児童の安全性を第一に考え、今後も町と連携を図り、優先順位を考えながら改善を図っていききたい。児童の登下校における安全については、通学路に関する安全面(防犯、防災、交通安全)に関する施設・設備について、町への報告・相談を密にし、これまで同様に関係機関と連携を図りながら、改善に向けて検討をしていく。また指導においては、交通安全教室の実施に加え、日頃より、注意喚起を行い児童の意識向上を図るようにする。 登校時間については、8:20から落ち着いて朝の時間がスタートできるよう8:05~8:15に変更した。また、登校時間前に登校した児童については、昇降口前の決められた場所で待つこととし、遊具等で遊ばないこととした。ルールの変更について年度の始めに周知徹底していく。
	10	家庭と連携し、食育を中心とした健康づくりや、望ましい生活習慣の定着を中心とした健康管理が進んでいる。(学校保健委員会での取り組み、家庭への啓発活動)	3.0 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ばくばくランチ」のプリントや給食放送などを通して、効果的な食育の推進がなされていると思う。献立も食を通して季節を感じることができ、心を育てている。 ・給食日より給食のレシピが載っているのがうれしい。学校のHPからも毎日の給食の写真が見られるようになってよかった。 ・子どもが毎日おいしく給食を食べていると聞いているので安心している。 ・家庭では季節の行事が薄れがちなので、学校での声掛けと給食保健だよりには感謝する。 	【食育を中心とした健康づくり】 新型コロナウイルス感染症対策として、文部科学省から発出された「新しい生活様式」をもとに給食指導を行ってきた。「食育」については、その大切さについて、栄養教諭を中心に各担当が協力して取り組んだ。アンケートや食育の授業など、児童が食事について考える指導を行っている。毎年、年に1回行っている「お弁当の日」は、今年度は実施できなかった。来年度については、新型コロナウイルスの状況に合わせて実施について検討していく。また朝食アンケートや栄養教諭が発行する「食育だより」などで啓発を図り、食への理解が深まるようにしていきたい。
職員の指導力向上と校内研究の推進・幼小中12年間の教育	11	幼(保)小中連携研究を進める中で、12年間を見通した教育内容の厳選と基礎・基本の定着が図られている。幼小中連携と学年の段階性と連続性を図る。	2.8 (2.8)	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題を明確にして共通理解のもと、12年間を見通した幼小中連携の効果的な教育に期待する。 ・コロナのため交流の機会が減ってしまい残念。 ・コロナ禍、できる範囲の中だけでも活動ができて良かった。なにもなかったこと、一度でもできたことはかなり大きな差だ。 ・コロナ禍の影響で研究会、交流行事等ができなかったと思うので来年度に期待したい。 ・コロナが収束した際には、また交流等の行事もお願いする。 	【校内授業研究(連携教育)】 幼・小・中が連携した研究を行うため、平成29年度に作成したリーフレットを活用して、合同研究会を実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策で、幼小中全体での研究会は実施できなかったが、新たに赴任した教職員も含め、教職員全体でその実践の意義について共通理解を図った。連携事業については、例年とは異なる形ではあるが、中学校の協力のもとウインタースクールを実施した。中学校の英語教員2名に本校にきていただき、6年生を対象に英語の授業を行った。中学校の教員による楽しい授業は、中学校入学の不安が期待に変わるきっかけとなったようである。また、幼保の年長児と5年生の交流も、2回実施することができた。コロナ禍における制約はあったものの、園児交流を通して、年長児もまた小学校入学への期待がふくらんだようである。次年度もこれらの交流を大切にしていきたい。 校内では外国語(英語)専科教員の配置により、本校に在籍する英語教育中核教員と連携を図り、学期の始めに外国語の時間の学習計画を立てることにより、ねらいを明確に見通しをもった指導の実施や教材の充実化につなげられた。 ICT教育では、プログラミング教育の実践的な研修を行うことができた。幼小中、または小中の相互参観などによる連携を行いながら、一人一台配付されるタブレットの有効的な活用の仕方の検討やルール作りを行っていく。 今後は、今年度同様に幼小中合同研究会で概要をつかみ、新たに赴任する教職員も含め、教職員全体で実践の意義について共通理解を図ったうえで新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、実践を重ねていきたい。各連携事業を行う際には、その目的を明確にするとともに、振り返りを行い、園児・児童・生徒と一緒に活動し、充実感や達成感を得られる取り組みとなるよう、今後もこれまでの実践を継続して取り組んでいく。
	12	校内研究の授業を行うことや初任研や年次研に全員で取り組むことが、職員個々の指導力の向上につながっている。	3.0 (3.2)	特になし	研究主題に沿って、算数科の研究を進めた。各学年児童の発達段階を考慮し、学習の効果を高めようとする取り組みで、教職員間のOJTとしても機能している。今後もお互いの研鑽の場として活用していく。
	13	児童指導や支援教育、道徳の時間等の校内研修により、個々の教師の指導力の向上が図られている。	2.6 (3.3)	・昨年よりも自己評価が低いのが気になった。	新型コロナウイルス感染症にかかわる様々な対応により、今年度は児童理解や学級経営の在り方などについての研修を実施することが難しかった。教職員全体の指導力向上のためにも、次年度は計画的に研修を実施していきたい。

地域協働・開かれた学校づくりの推進	14	教育課と連携しながら地域協働の推進に全校で取り組み、地域の人材（保護者）の活用により、教育活動の充実が図られている。 地域と連携しながら教育活動を行い、「真鶴ふるさと教育」の推進を図っている。（海水浴体験、遠藤貝類博物館、海の学校、真鶴絵画館等の取り組み）	3.0 (3.5)	・地域の方とのつながりを大切にし、学校の負担が減るようにボランティアを活かしていただきたいが、コロナ禍ではできなかったことも多く、仕方がない。 新型コロナウイルス感染症対策を行いながらではあったが、1～4・6年生の「海の学校」、3・5年の「まなづる芸術教室」、3～6年生の「書き初め練習」にご協力いただくことができた。来年度もできる範囲で町教育委員会やコーディネーターの協力をいただきながら、地域の方々と共に教育活動の充実を図っていききたい。 3・4年生では、ゲストティーチャーを招いての学習を行うことができた。今後も新型コロナウイルス感染症の状況に合わせ、児童の安全に重点をおきながら「真鶴ふるさと教育」の意義・内容について共通理解を図り学習を展開していききたい。
	15	学級・学年・学校だよりの発行、ホームページの開設により、特色ある教育活動を公表し、保護者、地域に理解が得られている。保護者教育相談、学校公開日の設定により、教育活動について保護者、地域に理解が得られている。	3.4 (3.0)	・ホームページの随時更新や学校だより等で教育活動について保護者や地域に広報することは学校経営をしていく上で大事なことだと思う。 ・学校の行事がコロナのため少なくなったが、校長先生のつぶやきを拝見させていただき様子を知ることができました。「つぶやき」というかたちの文章なのでとても親しみやすく読むのが楽しかった。休校中のラジオ出演も子どもと一緒に楽しく聞いていました。 ・校長によるHPは、他学年のことも知ることができ、学校に対して親近感もアップし、とてもよい。学校公開やPTA活動の減少は、現状では仕方がない。それに代わるお便りやHPの取組に切り替えられていて素晴らしい。 ・学校だよりなどで授業の様子や感想などを週一回で配布するのは多忙の中大変だと思うが、成長も感じることもできるのでありがたい。 ・感謝しつつ、継続をお願いしたい。
<p>～全体的な感想等～（自由記述）</p> <p>○普段通りにできないことがたくさんある中で、制限の中、子どもたちも自ら考えて行動できたと思う。先生方も大変苦労されたと思う。行事が少なくなってしまったが、安全のためには仕方がないと思う。子どもの学校生活アンケートでは「私は学校が楽しい」という意見がもっと増えてくれたらいいなと思った。</p> <p>○制限の中、子どもたち自らが主体的になってできること、やりたいこと、楽しめることを考え、行動している様子をうかがった。児童一人ひとりに寄り添っていただいていることに感謝するとともに、この大きな環境の変化にあっても、前向きに未来に向かって学校生活を送る子どもたちから希望や勇気ももらった。感染対策をはじめ授業の取り組み方など、例年とは異なることが生じているが、先生方も健康にご留意いただき、今後ともよろしくお願ひしたい。</p> <p>○今年度は、コロナ禍の影響で訪問することはできなかったが、子どもから学校での生活習慣が変わったことや行事がなくなり残念がっていたなどを聞いたので、来年度は行事が復活できるように願ひたい。休校は、親だけでなく、子どもにもかなりのストレスになることが分かる1年だった。</p>				<p>保護者・地域の皆様からのご意見やご助言を真摯に受け止め、全職員で主体的に学校運営のPDCAを確実に実行した。そのために、学校経営計画の中間反省やそれに基づいた改善を学期ごとに行ってきた。課題における改善点については、次年度に確実に引き継いでいけるようにする。さらに、児童数の減少に伴い、教職員の定数も減少する。働き方改革も視野に入れ、校務分掌の在り方や業務内容の再検討を進め、教職員がゆとりをもって児童に向き合えるような環境づくりを検討していききたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策による2か月間の臨時休業を通して、「学校」が「様々な人と関わりながら、好きなことだけでなく苦手なことにも取り組んだり学んだりする場」であることを再確認した。いただいたご意見やご助言、また、学校反省を生かし、学校がもつ意義を大切にしながら普段の学習活動はもちろん行事を含め、より充実した教育活動が推進できるよう尽力していききたい。</p>